

芸文だより

第30号

平成25年3月12日
村山市芸術文化協議会

第48回村山市芸術祭シンボル事業 津軽の響き〜「正徳会25周年記念発表会」

第48回村山市芸術祭シンボル事業
山形県芸術祭参加
津軽の響き 津軽三味線貢正流 正徳会25周年記念発表会



匠巻の津軽三味線 130名の大合奏



葉山中1年生による演奏



富本小児童による大黒舞



第3部ゴールデンショー

第四十八回村山市芸術祭シンボル事業「津軽三味線貢正流 正徳会二十五周年記念発表会」は津軽の響きが十月二十八日、市民会館大ホールを会場に開催されました。この公演は、正徳会創設二十五周年を記念し開催したものです。今回、芸術祭シンボル事業として地元の正徳会の会員ほか、東京より家元の貢正会の会員数十名を迎えて、総勢一三〇名の津軽三味線の大合奏を行いました。オープニングを飾ったのは正徳会一三〇名による「津軽じょんがら節」。第二部の会主

コーナーでは、伝承文化との絆と題して、総師範の三山正徳氏が指導している葉山中一年生の三味線の演奏や、村山農業高の又新連による徳内ばやしのお囃子も披露されました。第三部のゴールデンショーでは、数々のゲストの唄い手による民謡と三味線の演奏を楽しんでいた。最後は出演者全員で花笠音頭を披露しフィナーレを迎えました。市内外から訪れた観客で満員の大きな拍手に包まれていました。



「喜び・感動・夢」 市民と共に享受を!

村山市芸術文化協議会
会長 齋藤 峻

昨年は、冬の大雪山、そして夏の猛暑と、異常気象に悩まされ、日常生活の歯車が時として狂わされ、また私たちの芸術文化活動にも少なからず影響を与えてきました。

しかし、加盟団体のみなさんには、こうした悪条件にも果敢に立ち向かい、日夜研さんを続けてこられましたことに、心から敬意を表しますとともに、改めて芸術文化が生み出す底力を感じさせられました。

昨今の私たちを取り巻く環境は高齢化が進み「如何にして後継者を育てていくか」が今日の大きな課題となっております。しかし一朝一夕で解決される問題ではありません。

幸いにして、芸術文化活動の道に定年はありません。年齢に関係なく命ある限り現役であります。長年研さん、努力を積み重ねてこられた技にこそ枯淡の香りが漂い、多くの人たちに「喜び・感動・夢」

を与えるものと思えます。そこから後継者の人材育成へと結びついていくことを確信しております。

さて、第四十八回村山市芸術祭は、シンボル事業の「正徳会二十五周年記念発表会」をはじめ複数の団体が節目の記念の年を迎え、例年になく芸術祭は大きく盛り上がり、多くの市民に感動を与えました。芸術祭に参加されました全ての団体に深く感謝を申し上げます。

「NHKのど自慢」を開催 村山から全国へ生放送

NHKの人気番組「のど自慢」の放送が七月八日に市民会館でおこなわれました。

のど自慢は、昭和二十一年の放送開始以来六十年以上続いている超長寿番組で、村山市での開催は七年ぶりとなりました。

前日の予選会には二百二十組が参加し、激戦を勝ち進んだ二十組が本番に出場しました。



のど自慢予選会模様

声が観客を魅了しました。ところで、審査結果の鐘はどのようにして鳴らされているのかご存知ですか。

実は、専門の審査員四〜五人が別室のモニターテレビを通じて審査をおこない、ステージ上の鐘奏者に無線で連絡して「一つ・二つ・合格」の鐘をたたくシステムになっているのです。

また、のど自慢出場後にプロデュースした歌手には美空ひばり、北島三郎、五木ひろし、森進一などの大御所から、最近では、ジェロやモーニング娘・AKB48のメンバーなど多彩な顔触れで、のど自慢の歴史と国民的な人気があがります。

(小玉 裕)



のど自慢本番当りハール

杉島諏訪太鼓保存会 結成30周年を記念して

三十年前、杉島諏訪太鼓保存会は柴田会長のもと、地区の理解と協力を得て、地域活性化、健全育成を目指し、立ち上げられました。

私が小さい頃から諏訪神社での元旦初打ち、春祭り、盆踊りで必ず披露されてきました。今でも地域はもろろのこと、市内外の祭り、イベント、ボランティアと幅広く活動をさせて頂いています。

私も小学生の頃から太鼓を始め、演奏後の拍手、笑顔、誉め言葉に支えられ練習に行



子供太鼓「はやぶさ」

くのが習慣になりました。大人になり、後輩ができ、指導するようになって教えることの難しさ、打てるようになった時の嬉しさを体験出来ました。また、外国の方との交流もあり、友人もできました。

三十年の間に多くの仲間が増え、色々な思いや体験を胸に秘め、このたび、杉島諏訪太鼓は結成三十周年記念公演を迎えることができました。

第一部では村山市の山河の風景、季節を表現した曲。故郷を思い浮かべ心に響くよう魂をこめて打たせていただきました。

第二部では舞・唄を加えて地元の楽しみ春祭り、夏を彩る山形の花笠祭り、賑やかに心踊る響き。杉島諏訪太鼓メンバーの芸達者な面も見ていただきました。

ファイナーレでは、山形の花笠音頭。私達も毎年楽しみに



花笠音頭でファイナーレ

参加させていただいてお祭りです。八月の本番の賑わい、心踊る熱気を表現し、感動していただけるよう全力で頑張りました。

そして、この公演では打ち手だけでなく、快く準備や裏方を手伝って下さった多くの方々、これまで指導して下さいました各先生方、多くの力で支えられ、おかげで無事に開演する事ができたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

(高橋郁美)

真下慶治記念美術館 「遠藤賢太郎展」ふるさとの風土を描くを開催

平成二十四年度のメイン企画展として、十月十二日から十一月二十日まで真下慶治記念美術館において「遠藤賢太郎展」を開催しました。

遠藤画伯は、米沢興譲館高校卒業後、山形大学で真下慶治の指導を受け、真下の自然主義と現場で描くことの大切さを継承しました。その後、

長野巨匠外諸先生に水彩・彫刻等を学び、在学中から東北現代美術展・水彩連盟展に出展し、その才能を開花させて



遠藤賢太郎さんによるギャラリートーク

きました。

卒業後は兵庫県で中学校の教諭をしながら国展に入選を重ね、山形に戻ってからは山形大学の講師となり学生の指導に力を注ぎ、現在は名誉教授です。

今回の企画展では先生の一貫のテーマである「光」に関する作品を、上杉博物館、山形大学のご協力を得て十六点展示しました。十月二十一日にはギャラリートークを開催し大盛況でした。(永瀬 淳)

最上徳内記念館 「もりわじん展」泣き猫 まことの福祉を開催

平成二十四年六月八日から七月十七日まで最上徳内記念館において「招き猫作家 もりわじん展」泣き猫 まことの福祉を開催しました。まねき猫作家で現代美術アーティストとして活躍するもりわじんの創作「招き猫」の第二回目となる作品展です。

村山市に工房を持ち、二匹の猫が寄り添う形の家に住まわれていることでも知られています。

本来の創作招き猫の外に、昨年わじんさんが絵本を初出版されましたのでその原画も展示しました。二階の古民家には、親猫を抱き介護している大きな二匹の猫と、泣き猫百体を展示しました。「大きな口をあけて泣く猫」涙を堪えながら泣く猫」等、そこには悲しさの中にも、どこかユーモアと可愛らしさが伝わってくる作品群でした。女性のお客様が多く来館され、また東



にぎわった「もりわじん展」

京など県外からのお客様達とわじんさんと作品群を見ながら泣き猫談義で大いににぎわっていました。(鈴木正人)

第48回村山市芸術祭

第四十八回村山市芸術祭は、十月二十八日の芸術祭シンボル事業「正徳会25周年記念発表会」から十二月九日の親父ロックバンド「スキップ・スーパードライブ」までの約一ヶ月半、個性溢れる公演、展示が村山市民会館を主会場に開催されました。期間中、それぞれの会場には多くのお客様が訪れ、芸術の秋を満喫していました。



幽玄の世界 謡曲公演



にぎわった芸術祭お茶会



ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団演奏会



暖かい作品が並んだ手編み作品展



美しいメロディーを披露した大正琴演奏会



厚岸との合同写真展



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



感動を呼んだ劇団赤ひげ「ベッカソおに」公演



労作が並んだ人形・押絵展



大作が出品された芸術祭美術展



和のハーモニーを楽しんだ三曲公演



甘い香りに包まれた五流派合同のいけばな展



満員の聴衆を魅了した村山混声合唱団フェブリエ



親父パワー全開！SKIPライブ

もつと知る機会を

日本舞踊若三会 佐藤 朋子

昨年末に歌舞伎俳優の中村勘三郎さんが急逝され、突然の訃報に大変驚いたと同時に、伝統芸能の元気の無さを表しているような印象を受けました。若三会も、新たな会員を得るのはなかなか難しいのが現状です。ダンスが義務教育化される一方で日本の芸術文化にはあまりスポットが当たらず、知る機会もどんどん少なくなっているように感じます。もちろん無理矢理参加するものではないし、自分が興味を持った事を精一杯やる事が大切ではありますが、若い世代が日本の良き芸術文化に触れる機会が極端に少ない事はとても残念に思います。



親子共演の「羽根の禿」

私は幸運にも幼少時より日本舞踊に携わる機会を与えてもらえ、昨年の第五十回山形花笠まつりや若三会の発表会に出演できたり、「先生」と呼んで尊敬できる師匠がいること、そして少数でも同じ志を持つ仲間が居て一緒にお稽古出来ることを大変嬉しく誇りに思います。そしてそういう人達が少しでも増える事を願っています。



若手5人が「新曲浦島」に挑戦

明るい兆し

村山吟友会 太田 時子



55周年吟道大会にて

「光陰矢の如し」早いもので今年度の諸行事も終わろうとしています。毎年バラまつり時に、東沢公演にある吟魂碑の前で神事を行い、古くから伝わる村山独自の「吟聲」、また武田静山先生作の「吟魂碑」を一同合吟し、その後日頃の成果を発表する吟詠大会を行っております。秋の芸術祭参加として、市内十二の教場の愛吟者が、流派を問わず吟じ合い、発表し合いました。すでに三十二回を数え、元氣

村山市民謡連合会の歩み

村山市民謡連合会 齊藤 渡

昭和初期、西郷民謡愛好会を先頭に、村山市民謡連合会が誕生しました。そこに参集したのが、結城藤右工門、結城誠一、柴田貞吉、小室北菁、柴田惣助の各氏、有余名でした。初代会長に、柴田惣助氏が就き、須藤浅野氏を始め、数多くの唄い手を育て、県大会や全国大会で優勝させるなど、会員の育成と会の振興に尽力

しました。加盟団体数は、三味線民謡正徳会、わかくさ民謡愛好会、みちのく民謡振興会を加え、十団体となり、その功績は、二代目会長の須藤浅野氏に、三代目会長の三山正徳氏に引き継がれ、会の歴史と伝統を守っています。毎年、東沢バラまつり民謡ショー、村山市民謡連合会の民謡発表会などに出演し、優秀な成績を収めています。ま



正徳会発表会にて

た、その他のイベント出演や老人施設の慰問など、活躍は多岐に渡っています。昨年は、三味線民謡正徳会二十五周年記念発表会に、連合会全員が一丸となって練習に励み、大盛会となりました。今後、地域住民と共に、楽しく息の長い活動を続けていきたいと思っております。

義理と人情の股旅舞踊

松舞踊村山塾 田中正信

○「三十石船」で開演
心配された雪も降らず、朝八時前にはファンが詰めかけ長い行列をつくりました。中には、長井市や山辺町から貸切バスで来られた方達もありました。約千名の会場は満員。チャリティー基金贈呈後、編の合羽に三度笠のヤクザ衆二十余名による、清水次郎長の「三十石船」で開演。踊り手と観客の息がピッタリ、すごい熱気と興奮に包まれました。○どうして股旅舞踊は人気があるのか？

一つは懐かしい思い出です。村まつりでの素人演芸大会：そんな子供の頃の光景が甦ってくるからだと思います。二つ目は股旅の世界は義理と人情の世界です。義理と人情は、私達の父・母・先祖が大切に守ってきた日本人の宝です。それが人の心を打つのだと思います。
○私たちの夢
私たちの夢は、松としはる先生、松ゆうか先生の指導をいただき上手になることです。大きな夢があります。そ



満員の股旅舞踊チャリティーショー

れは、股旅をとおして
●「潤いのある楽しいまち」
●「義理と人情のまち」
●「交流人口の増」
につなげることで。
皆様の温かいご支援・ご声援をお願いします。

「筆」に感謝、「墨」の香を楽しむ

村山市民謡連合会 佐藤 逕 翠

書道は筆、墨、紙が作品づくりの主役であり、これがなると何も出来ません。特に筆の役割は大きい。作品制作の際は、手と紙、墨を結びつける筆が主役となります。筆は書の命とも言えます。さて、市書道会は年間行事として、六月筆供養、十月市芸術祭書道展、十一月書の色紙展、主に三つの事業を行っています。

筆に感謝をこめて供養をしています。十月の市芸術祭の書道展には、約六十点の作品を展示。作品の大きさを半切以下に統一し、皆に親しまれる書道展として定着しました。十一月の書の色紙展は、甌葉プラザで開催。作品数は、市長、県議などの特別出品を含め九十四点。漢字、かな、近代詩文、調和体などの多様な作品は皆さんに喜ばれ、また、書道展、色紙展ともに華道連盟の友情出展により会場に華を添えて頂きました。

芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、平成24年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月26日市民会館)

感謝状	栄光章	功労章
高橋 郁美 (西郷・杉島諏訪太鼓保存会)	安達 岳峰 (楯岡・書道会) 入選	須藤 泰治 (西郷・民謡連合会)
落合ミツ子 (楯岡・吟友会)	板垣 玉潤 (楯岡・書道会) 入選	
佐藤チヨエ (楯岡・民謡連合会)	渡邊 柳泉 (楯岡・書道会) 毎日賞	
伊藤 大蔵 (楯岡・社会音楽連盟)	阿部 陽子 (楯岡・書道会) 山形放送社長賞	



秀逸な作品が展示された書道展

原田一裕さん 日展初入選を祝う

第四十四回日展において、原田一裕氏（市美連副会長）が洋画部門に「吊るした布と牡丹」を出品し、見事初入選を果たしました。これも一重に日頃からのたゆまぬ精進の賜と会員一同心よりお祝いを申し上げます。

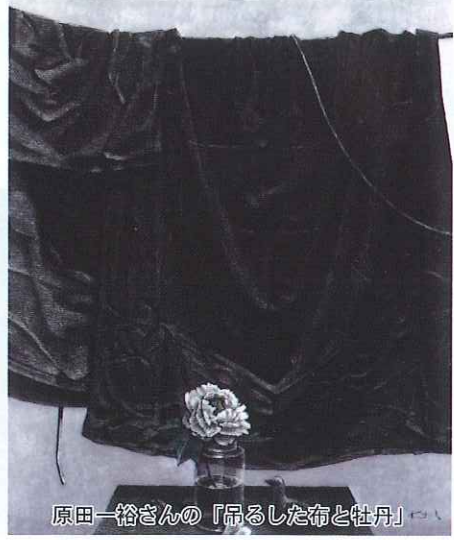
市美連会員では嘉規雅之前会長以来七年振りとなる快挙で、市芸術文化の向上発展に寄与されたものと心より敬意を表します。氏の作風は、モノトーンの落ち着いた独自の世界を醸し

出し、対象物に対する深い観察力と精緻な描写力、画面構成の巧みさは見事であり、見る人に強い印象を与える作品で、それが高く評価されたものと思います。

県美展では、早くから委嘱作家として活躍、中央画壇においても、具象を礎とする示現会会員として数多く

入賞を果たしており、山形支部の中心的作家として今後の活躍が期待されています。今回の入選を機に、尚一層のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

村山市美連会長 須藤正義

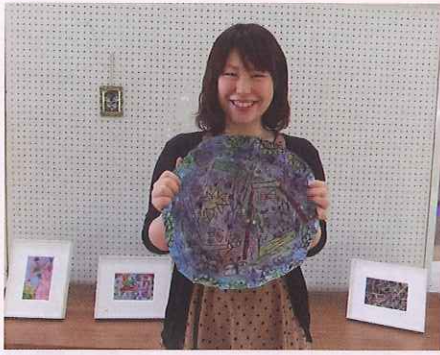


原田一裕さんの「吊るした布と牡丹」

注目!

七宝焼作家

大山芙由美さん



東北芸術工科大学を卒業後、現在、仙台市内の会社に勤務しながら週末に七宝焼の制作活動を行っている大山芙由美さん。

七宝焼とは、銅や銀などの金属の地下にガラス質の釉薬を盛り、高温で焼成する工芸品で、その歴史は古く、古代文明の遺跡からも発掘されています。

大山さんのお母さんは、七宝焼作家の大山阿津子さん。お母さんの指導のもと、五歳の頃より額絵やアクセサリーの制作をしてきましたが、最近では単独で講習会も開催されるようになりました。大山さんの作品の特徴は、動物をモチーフにしたものが多いそうです。

楯岡の大山かみやの二階で、七宝焼体験もできますので是非お立ち寄りください。今後の活躍を期待します。

村山市芸文協のうごき

4・20	会計監査
4・25	三役幹事会・理事会
5・26	県芸文会議総会・創立50周年記念式典
5・29	総会
6・30	社音50周年記念・市民会館自主事業「河村尚子ピアノリサイタル」(後援)
7・5	三役幹事会・理事会
7・16	村山市長杯第9回羽州街道楯岡宿股旅舞踊全国大会(後援)
9・24	シンボル事業打合せ
10・2	芸術文化功労者選考委員会
10・17	県美展こども県展村山巡回展(後援)
10・26	村山市芸術祭開幕式
10・28	功労者表彰式
12・11	シンボル事業「正徳会25周年記念発表会」
12・19	北村山芸文協懇談会(大石田町)
12・26	市芸術祭反省会
11	芸文だより編集委員会
11	山形交響楽団村山定期演奏会「ニューイヤール・モーツァルトコンサート」(後援)

あとがき

昨年の夏は、猛暑の中、遺跡の発掘作業に従事してきました。たくさんのお土器や珍しい木製品が出土しましたが、大きさ・形・色・模様がついていたり、さまざまな特徴があり、なにか、芸文の各団体に所属している私たちのように思えました。

芸文だより第三十号の節目の発行に、携われたこと光栄に思います。昨年「芸文だより」が各家に、回覧板で回してもらえるようになり、芸文協について少しは理解して頂ければと思います。

芸文だより編集委員

- 堀 澄雄 (村山フォーククラブ)
- 齊 藤 渡 (村山市民謡連合会)
- 佐 藤 朋子 (日本舞踊若二三会)
- 太 田 時子 (村山吟友会)
- 田 中正信 (松舞踊村山塾)
- 佐 藤 敏彦 (村山市書道会)